

二度目のA5ブータン運用雑感

JH3AEF/ A52AEF 東條純一

昨年に引き続きA5で運用ができるのはひとえに私の友人 JH7EQW 湯浅 涼 Drという山台在住の耳鼻科医のお蔭である。実に良い機会を作っていただいたことに深謝、いや、いただいていることに深謝である。既に来年のSKDもほぼ固まっているのだから、ついにご披露するならば両名ともお医者であるには違いないが何故 3と7が繋がっているのか。そこには実に耳を疑いたくなる程永い共有の時間の醸成があるのだ。1970年から休むことなく毎週続けられているMD NET(medical Dr. net)、関連の会場で言葉の端にこぼれたマジアいつきのスーパーラジオを作った話、1938年生まれの虎、毎年受け取る年賀状には必ず蝶の写真、共振点が三つも四つも重なって、人の体の上と下のトンネル担当と守備範囲は全く違っても切っても切れない親交が続いているのだ。

そう 大切な話をしなければ。東北震災の後、ブータンの若き国王ご夫妻は震災の地をお見舞い下さった。そのお礼にと彼が主宰する耳科中耳外科学会の有志が、現地でボランティア活動として対象の難聴患者を選別し、手術し、聴力の改善を図るのが渡航の目的であり 今年では70~80人を手術できる予定と聞いた。勿論、医師、看護師、スタッフ一同、大きな手術用の機材まで日本から送り込まれ、医療費は一切徴収しないのだから凄いの一言に尽きる。その状況は毎年、現地有力紙の一面に彼の写真共々掲載報道されている。勿論ハムの話は一切載らないのだが。

通関を済ませ、何だか手術機材とは程遠い大きく汚い梱包一式を積み込んだマイクロバスは走り出す、と 病院近くからあらぬ方角に、...

「あれ、あの人は？」

「あー、あれは無線家の人達です！」

「無線科？」無線科？」

「はい、無線家、家、家の人達ですので病院には立ち寄りません。」

「????、...」

我々が運用候補地として第一に選んだのは昨年と同じトチュラリゾートであった。この地は首都のティンブーから旧都のプナカに向かう街道筋にあり丁度峠の頂にある。南西方向の一部を除き絶好の眺望を誇り 晴れた日にはヒマラヤの峰々が白く輝き、旅ゆく人々のこの上もない休憩場所となっている。峠には大きなお寺が一軒あるが、この地でお宿をとる人は滅多にない。我々の滞在中もたった一組の家族が一泊したのみで常時貸切のような状態であった。

山国であることから水利はすこぶる良好、ただ細菌学的なことを求めるのは無理、ガイドも生水は飲むなど。水力発電はこの国の主要産業のひとつで隣国インドに電力を輸出しているとか。空調ではないが各室にオイルヒーターが1台配備され、バスタブ付の風呂にも電気給湯器が備わっていた。小型ながら洗濯物を乾燥する電気乾燥機も風呂の一角にあり 長期滞在には非常に重宝した。天災でもなければ停電もないようだ。

家具調度品はすべからく木工、壁も床も天井もである。すぐ近くの山に出かければいくらでも原木が手にはいるのだから当然と言えば当然、決してベニヤや合板の手の込んだものは使わず、原木を削ったままの床であり壁であり天井なのである。丁度品、クローゼットからテーブル、椅子にいたるまで実に荒削りで、日本であれば昔は中学生の作品展で見かけられたような何か懐かしさの漂う品々なのだ。部屋の真ん中には薪ストーブが配置されていたが九月には出番はなかった。

ブータンの家屋で特徴的なのは屋根がすべからくトタン張りとなっていることだ。都市中の近代建築、といっても数の上では極く少数派、がどうなっているかは定かでないが、トチュラリゾートも定番のトタン屋根であった。天井板は有るものの、強い雨が降るとうるさいの何の。今回は夜間に雨が降ることが多く、慣れるまでに苦労した。



全員の集合写真(トチュラ・リゾート)



到着から出発まで付き添ってくれたガイドのウゲン氏

とにかく洗練さを求めるのであれば、食堂にしる客室にしる日本では考えられないゆとをもつて我々を迎えてくれる安住の宿といっても過言ではなからう

ゆとがあって眺望の良い峠の宿、聞こえは良いが標高3150mだ。これを忘れると大変なことになる。ホテルの駐車場から玄関までは緩くはない階段を40~50段。事情を知らずに重たい荷物を持って登ろうなどしよう先のなら半分も行かないうちに心臓がバクバク、真っ青になってへたれ込んでしまう。この辺り先宿泊客が少ない理由なのかも。

関空を夜中に発ちバンコク乗り継ぎ、プータンに午前の早い時間に着くのだからアフリカに比べれば近いものだ。昼飯はホテルで済ませ午後にはANTの設営にかかれる。夕方にはon airできるのだ。

我々が予約した部屋からは出入りのできる広いベランダがある。10m x 30mはあるだろうか。スペースも広く障害物も無く、設置作業はすこぶる順調に運び、Hex(14~28)、Minimulti(18~50)、IV80、IV40、LW160の各ANTを短時間のうちに揚げる事ができた。

しかし、160、80mはノイズレベルが高く常時S9を超える状態で使い物にならなかった。40mもひどいノイズに悩まされ数局と交信をするのがやっとであった。これは昨年も全く同じ状態であり、何がノイズの原因かは不明である。

また、開局当初の週末はall Asia contest phoneに重なった。contestでA5を打って出るのも一つの作戦であるには違いないが、両サイトを受けながら、時には完全におつかぶされながら、ベアフットで周波数を維持し、コンテスターを常に引き留めておく技術は持ち合わせていなかった。いきおい、コントロール権を自由に駆使できるWARC bandに運用の中心を移さざるをえなかった。

今回の無線科グループはJA1CAJ/JH3LSS/A52LSS宮川氏CW、JA3IVU/A52IVU北井氏 Digital、JH7EQW/A52EQW湯浅氏 Phone、JH3AEF/A52AEF東條氏Phoneの分担で各自の部屋にシャックをかまえた。運用時の出力はAEFだけが100W、他は全て200Wであった。各自がband pass filterをいれての運用、お互いに異なるbandを使っての運用であったが、phoneの側からすると、CWが出てDigitalが出てband内がバツリつぶされ、交信できる状態ではなかった。

DigitalのShackとは厚い木製の壁で仕切られ、CWのshackとはかなり広い廊下で隔てられた状態であった。この状態では、或るshackが運用している間はPhoneの運用は休止せざるを得ないということになる。立場が入れ変わっても同じ結果のようであった。

しかし、XT2でみたイタリアチームの運用でもshackであるバンガロー間の距離は隣室よりは離れていたものの、KWで同時運用していたし、杉山さんのshackでもcontest時はrigを並べて同時運用するという話であった。

どう先自分たちの場合はbear footなのにXT2でもA5でもうまくない。

どこに原因があるのだろうか、ANTが近すぎるのだろうか？皆様のご意見をお聞かせいただきたい。

せっかくA5やXT2まで出かけるのだから、ましてや苦勞して先方のお役所のお墨付きまでいただいているのだから、全員が持てる時間とpowerをフルに活用し、できる限り多くの局と交信したいものだ。



ドチュラ峠の仏塔群

「金魚の糞」ブータン編

JA3IVU/ A52IVU 北井 十生

準備

今回も、荷物の重さどたかいでした。タイ国際航空は20k、ドレックエアがビジネス30kでなんとか小さく、軽くしました。というわけで今回もニアアップなしで。リグは湯浅さんがFT450D、東條さんがIC7200、宮川さんと北井がTS480HX、アンテナは18?28がミマルチの2エレ、14?28がHEX-5、3.5?がDP、1.8- --- 28が40mのLWにしました。特にロ-バンドのリクエストがあったためアンテナを用意しました。

車でまず西宮の宮川さん宅へ、次に東條さん宅へ行き 関空へ向かい予約していた駐車場へ(何日預けても5000円)タイ国際航空のカウンターへ 3人分を次々乗せると あらら超えている 心配しているとカウンター嬢 超えていますけどサービスしておきます」とよかったよかった。荷物はパロまでスルーで行くので多分大丈夫????

予定の0時30分すぎ、無事に関空を離陸した。しばらくすると軽めの夕食が出た。

到着、1時間ほど前の朝の4時ころ朝食が・・・ まだ眠い

バンコック国際空港に到着し、乗り換え口へ、乗り継ぎ窓口で羽田から来られた団長の湯浅さん(JH7EQW)に会った。無事手続きを済ませドレックエアのラウンジへ 6時50分、バンコック国際空港を離陸後、インドのグワーハーティーに寄り 山と山の間を降下し、山の尾根が窓のすぐそばに・・・パロ国際空港に無事着陸した。

ブータンに到着

タラップを降りて徒歩で出口へ、きれいな独特の建物 入国審査を受け、荷物を受け取り 税関へ なぜかアンテナなどたくさん荷物を持っていたのか私たちは無事通過した。

出迎え口には現地のデキさんとウゲンさんがお迎えに来ていました。

パロ空港後に車に荷物を積み込み、まずパロの「カンクー・リゾート」を下見して部屋とアンテナの張れる位置を確認して、宿泊地のトチュラ峠向け出発、首都であるティンブーを通り峠に登る途中、後ろのタイヤ付近から「シュー」と空気が漏れる音がした。大きなボルトが刺さっていてパンクだ。タイヤ交換して「トチュラ・リゾート」へ出発。峠のてっぺんには108の仏塔が建立されている。ここからの景色は絶景 遠く白いヒマラヤの山々が眺望できるはずであったがあいにく曇りで真っ白にも見えない。高山病に注意しながら荷物を運ぶ。

昨年と同じように2階のテラスの北側にHEX-5を南側にミマルチをそのとなりにLWとDPを設置することにした。

天気が悪くなりそうなのですぐにHEX-5を組み立てた。いいバンドは1.2程度。次にデキさん手伝ってくれてミマルチを組み立てた。(ミマルチは2エレのHB9CVであり、クラブのみなさんの評価は悪いが、組み立てただけで全バンド1.5以下になり、今までXTでも何度か組み立てが簡単で無調整ですぐに運用でき、よく飛んでいるといういいアンテナだ。)

運用開始

9月4日 現地時間17時ころから21と18の PSK31で運用を開始した。

早速、Euからパイルを受ける。

天気悪くヒマラヤの山々は全く見えない。夜は何も入感しなくなったのでJT65をワッチし、14でEuとQSOできた。

9月5日朝、朝日が差し込みヒマラヤの山々を拝んでいるとガスがかかり、また、真っ白に。

朝食後、3.5のDPとLWを上げた。

宮川さんがLW(40m)は1.8で長さを変えて調整し、何とか運用可能までSWRを落とした。アースライン各バンド2本張った。もっとラインがあったが張るスペースがなかった。ノイズレベルで常時S9振っている。この周辺何キロも家はない。これでは例え入感していてもわからない。ワッチしたが何も入感せず1.8のCWでCQを連呼したが返答なし。

9月5日の午後、ティンブーでの仕事が一段落し、湯浅さん(A52EQW JH7EQW)とデキさんが到着し、運用を湯浅さんに譲る。

6日の朝、日本時間09時(現地時間06時)からのJ13ZAGのロールコールに出るため、試験的にJA3AER荒川さんと呼ぶと応答があった。43~57くらいで入った。定時になり JA3USA島本さんの声が聞こえた。

この時間からAAコンテスト(電話)が始まり、通常バンドはコンテストばかりで湯浅さんが仙台のメンバーの方を呼ぶが応答なし。私はデジタルモードでオンエアした。

無線三昧ではなく、宮川さんが観光もしようとトチュラから車で2時間弱にあるブータンの古都「プナカ」へ。



トチュラ・リゾートのアンテナ(左上ミマルチ、右HEX-5)



ティンブー ブータン・リゾート24のDP

早朝から1.8Mで宮川さんがCQとワッチをするがノイズでまったく入感なし。また、3.5Mも同じ。7MでSSBが入感した。さすがにコンテストだ。8局とQSOをした。14や21でRTTYが賑やかでなにかと思ったらロシアのRTTYのコンテストが開催されていた。去年の10月と違って、曇りが多く、ヒマラヤの山々はほとんど見えなかった。

8日朝から撤収開始してミニマルチは来年も来るために簡単にダンボール箱に梱包した。今年もまた、男性だけでなく女性たちも運んでくれた。このホテルにはエレベータのようなものはなく、すべて人の手で運ぶ。

この雲海の中でヒマラヤの山々が遠望できるホテルから運用することができた。

1日三食ともレストランで食べるので女性たちも顔見知りになった。来年もまた来ると言ったら笑っていた。(また、変なおじさんたちグループがくるのか?)

次の宿泊地のパロ空港の近くの高台にある「カンクー・リゾート」へ、



「タクツァン僧院」の途中の展望台 左 宮川さん 右 北井

翌朝、ブータンの人々の信仰の聖地となっているパドマサンババが虎の背中に乗って8世紀ころやってきた。「タクツァン僧院」へ、ここは海拔3000mを超えるところの岩壁に鎮座している。「タクツァンとは虎のねぐら」という意味らしい。片道登り3時間、下り2時間ほど。展望台(2800m)に茶店がある。ここから少し登り、また、石段を下り、登ってやっと僧院の入り口に着く。ブータン人、欧米人、中国系の人など、中に日本人がいたので話を聞くとJICAの人たちだった。東條さんは山歩きをしているので速く、いつのまにか姿が見えなくなりました。

宮川さんと私とウゲンさんはかなり遅れて僧院に着いた。

また、首都のティンブーへ、チェックインまで時間があつたので切手と絵はがきと土産を買うために中央郵便局へ、ブータンの切手は世界的にも有名です。その前の土産物店にも入った。早速、ホテルに行き、アンテナが張れるかチェック。24のDPを張ることにした。宮川さんが初めてだったので市内観光へ、第3代国王の「メモリアル・チョルテン」、ブータンの国の動物、ターキンを見に、保護区に行き「ターキン」を見学し、ブータン紙(和紙のような紙)の製造工房へ、その後、ホテルへ。夕方、ティンブーで今回の耳科チームと無線家(科)チームが揃い、晚餐会を開く予定でしたが耳科チームはブータンの耳科の方々と晚餐会となったので無線科チームは遠慮した。翌朝、無線家チームは、帰国のため、パロの空港へ、手荷物検査を済ませ、チェックインへ、手荷物の重さが3人合わせて、無事通過した。あれ私の機内荷物がないと調べると預け荷物と一緒に機内へ積み込まれてしまった。関空まで無事に到着するかと心配した。

予定の時間とおりにパロ国際空港を離陸、山の谷間を縫うよう上昇していき、やっと山の頂上を通過して、一路、バングラーディシュのダッカ経由でバンコックへ、ラジットエリアでタイ国際航空のカウンターでチェックイン後、23時30分の関空行きまでターミナルでまたなければならない。

帰りの飛行機はA380の総二階建だ。ずっくろくろくいな機体。トゥーイングカーで押し出し、タクシーウェイに向かおうとするのになかなか動かない。非常用ブレーキのトラブルらしい。別のオープンスポットまで移動し点検すること。ウトウトしていると離陸していた。大丈夫かな。

今回のデジタルモード(RTTY、PSK31、PSK63、JT65HF)とSSBで運用でQSOの出来たのは7,14,18,21のバンド。

- 1 ローバンドでのノイズレベルの高さ
 - 2 ハイバンドでもまったく入感しない時間帯があつた。
 - 3 一旦、バンド(24,28)がオープンするとアンテナの方向に関係なかったこと
 - 4 アンテナの地上高が低かつたこと。(3.5mほど)
 - 5 入感時間が少ないことと信号が弱かつたためSSBが少ない。
 - 6 AAコンテスト電話部門(8局 QSO)に参加し、ログを提出した。(多分A5で1位)
- 総QSO局数は4人で1500局ほど。

終わりにブータンでの貴重な運用の機会をを与えていただきました「陽浅 涼」先生ほか耳科チームのみなさん方に紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。



はるか遠くの「タクツァン僧院」